

# 携帯で「災害用伝言板」



情報編 田

東京都練馬区内の高齢者センターで開催された携帯電話の初心者向け講座。地域のお年寄り約30人が、さこちない手つきでボタンを押して、電話をかけたたり、メールを送ったりしていた。

講師を務めたNPO法人「竹筒の会」副理事長の橋詰信子さんは、「操作に慣れてきたら携帯電話の『災害用伝言板』を使えるようになってほしい。家族の安否が確認できる大事な機能だから」と強調する。

「災害用伝言板」とは、NTTドコモなど各社が、災害時に提供するサービスだ。携帯電話の画面上に、居場所やがの有無など、伝えたいことを100字以内で書き込んで登録しておく。その内容は、家族や友人などが互いにそれぞれ携帯電話から確認できる仕組み。電話がつかないにくい時に役立つ。災害時のみのサービスだが、携帯電話各社は、体験できる日を毎月1、15日と、防災週間などに設定している。

一人一人が持ち歩く携帯電話は、情報を入手し発信

## 役立つ機能 慣れておく

する貴重な窓口。「使えるかどうかで大きな差が出てくる」と橋詰さんは話す。

通じて自治体や、かかりつけ病院のサイトなどもチェックしておこう。災害時、地域の被災状況などをつかむために役立つサイトだ。「サイトをあらかじめ登録しておく、簡単な操作で見られる。災害時に慌てなくてすむ」と近藤さん。

携帯電話は高機能化が進んでいる。分厚い取り扱い説明書を見ただけで、嫌になる人もいるだろう。シニア世代のIT(情報技術)活動を支援する「老テック研究会」事務局長の近藤則子さんは、「すべての機能を使いこなそうと思う必要はない」とアドバイスする。災害発生時に役立つ機能の一つとして、近藤さんが薦めるのは、ワンセグ(携帯電話向け地上デジタル放送)だ。テレビが停電で視聴できなくても、携帯電話のバッテリーさえ残っていれば見る事ができる。東日本大震災の被災地でも「ワンセグで情報を得た」という声があった。

近藤さんによると、携帯電話の役立つ機能について、高齢者は知らないことが多い。知っていても最初の設定をする段階でつまづきケースが目立つという。「購入時に窓口でじっくり説明を聞き、使えるところまで設定してもらおうのがお勧め。携帯電話の扱いに慣れている子どもや孫に聞いておきたい。」



高齢者向けの携帯電話講座で使い方の基本を学ぶ参加者。橋詰さん(右)は「災害時にも役立つ」とアドバイスする(東京都練馬区で)

- 携帯電話を災害時に活用するために
- 購入時に、災害用伝言板やワンセグなど知りたい機能について詳しく聞き、設定まで頼むとよい
  - 購入後も、わからないことがあったら店を訪ねるとよい。携帯電話会社によっては「10人ほど集まるなら」「公的な集まりなら」などの条件で講師を派遣してくれることも
  - 携帯電話に詳しい家族や友人に教わりながら、よく使って慣れておく
  - 予備のバッテリーや充電器を持ち歩く。非常持ち出し袋に入れておくことも大事
- (橋詰さん、近藤さんの話をもとに作成)

## 暮らし 家庭